



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.34
六甲山の植生/武田 義明
2006年1月発行

第34回テーマ： 六甲山の植生

講演内容

- ①六甲山の植生の由来
- ②六甲山の主な
現存植生と植物
- ③種多様性と森林管理



講師：武田 義明さん

プロフィール

1948年生まれ。1971年3月神戸大学農学部卒業。1972年2月神戸大学教育学部文部技官。1995年12月神戸大学発達科学部助教授。2005年10月神戸大学発達科学部教授。



六甲山の植生の由来を知る

実施日：平成18年1月28日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA 里見ホール

冬本番を実感！

今年最初に登った六甲山は美しい雪景色でした。気温マイナス1度の寒さにも負けず、ノースロードから記念碑台まで散策路を清掃しました。お昼にYMCAへ戻って、熱々の鍋焼きうどんと天ぷらをいただいて心身共に温まりました。

午後は21名の熱心な参加者が揃いました。新しい顔ぶれもあり、和やかに講演が始まりました。



散策路の点検と整備について検討

六甲山の植生のオーソリティー

武田義明さんは、六甲山の植生について30年以上も調査研究が続けられています。その他ご自宅近くの里山である吹田紫金山の環境保全活動にも取り組まれているそうです。

講演では、明治以降の六甲山の植林や自然回復の変遷、ブナやシイなどの現存する植物群落を垂直分布の階層に分けて、わかりやすく解説いただきました。また、深い知識と経験に裏付けられた内容は大変興味深く、植生調査研究の重みを感じました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

六甲山の植生の様相を知った

六甲山は炭や建材による伐採など、人の手が入った山で、特にブナは樹の根際から複数の幹が出る「株立ち」が多く見られるそうです。これまで管理していたところが放置されて、植生や種多様性などの問題が起きていることを知りました。

質疑応答では、六甲山で実際に自然保全に取り組む人たちの具体的な意見も出て充実しました。その他、今後の森林管理についても話しました。

手を入れた以上は管理し続ける

今回のお話で、六甲山の自然は放置できない状況であることがわかりました。これまでの自然の変遷を理解し、植生を維持することの課題や管理の必要性を認識できました。次世代に残すためにも私たちは何ができるのかを考えてみたいのです。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 小野 涼子さん

六甲山の現状植生だけでなく、100年前のはげ山からスタートした植生の経過について、写真等を交えながら説明して頂きました。また、人の手が入らなくなったことで淘汰されつつある種を、どのように保全していくのかという、今後の森林の管理のあり方など興味深く聞かせて頂きました。



里見ホールの暖炉の暖かさや薪の燃える良い香りがとても心地良い、普段とはひと味違った講義も魅力のひとつでした。

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成